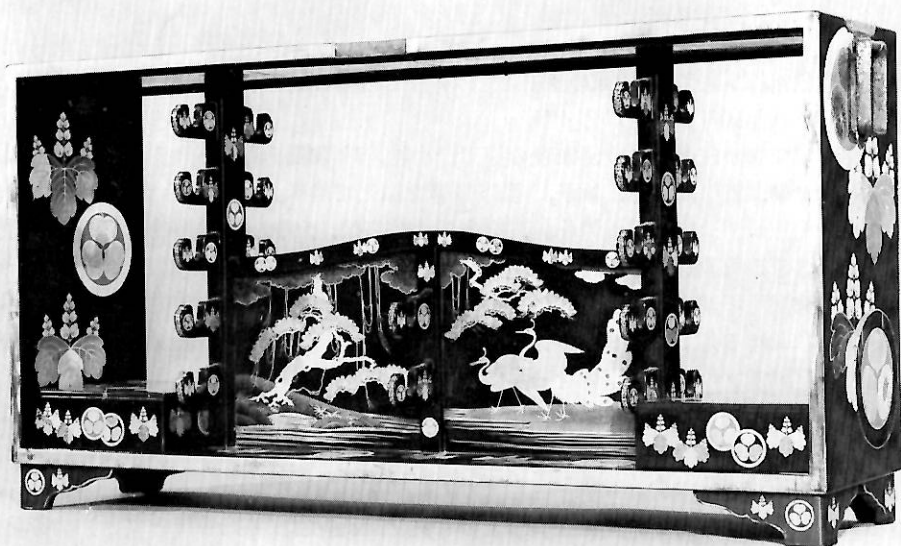




重文 蒔絵刀箱

目 次

博物館のあゆみ

昭和 59 年度	2
昭和 60 年度	6
博物館の名品	10

博物館のあゆみ

昭和59年度

館内業務

1. 特別展

○特別展「紀州徳川家伝来 染織の美」

会期＝昭和59年10月6日～11月4日

紀州徳川家伝来の家康、頼宣、家茂の甲冑、小袖、陣羽織、具足下、産衣を中心に紀州藩主夫人の腰巻、打掛、単衣、帷子、掛下帯等を加えて展示。出陳60余点（重文4件）。協力は和歌山東照宮、東京国立博物館、奈良県立美術館、和歌山県立博物館。共催は静岡新聞社・SBS静岡放送。協賛は和歌山東照宮、静岡鉄道。

○特別展「徳川将軍家の名宝」

会期＝昭和60年1月1日～3月31日

館蔵の国宝・重文の刀剣と甲冑を一堂に展示。

2. 刀剣類定期手入れ

昭和60年3月12日、池田猪太郎氏の手により館蔵刀剣類の定期点検手入れが行われた。

3. 刀剣の調査

昭和59年8月18日～20日、文化庁美術工芸課文化財調査官広井雄一氏と（財）佐野美術館副館長渡辺妙子氏に依頼し、当館所蔵の刀剣の調査を行なった。

4. 館報第8号の発刊

昭和59年4月30日、昭和51年度より同58年度に至る博物館のあゆみを中心とした「館報第8号」を発刊した。

5. 図録「特別展 紀州徳川家伝来染織の美」の出版

昭和59年10月6日、特別展を記念し、出品目録・解説付の図録「特別展 紀州徳川家伝来染織の美」を1,000部出版した。

6. 視聴覚資料の購入

昭和60年3月13日、「歴史ドキュメント 皇女和宮清く匂うが如く」（静寛院宮奉賛会企画、マツオカプロダクション製作）の16ミリ映画フィルム1巻を購入した。

7. サマースクール

○第4回サマースクール

期日＝昭和59年7月25日～27日

主催＝当館・（財）駿府博物館

会場＝当館・東海大学海洋科学博物館

内容「久能山の歴史と文化財」「駿河湾のさかな」等。

8. SBSラジオ番組「井出孝の土曜はごきげん」への制作協力

昭和59年9月22日、小林学芸主任がラジオ番組に出演し、東照宮の江戸期の様子を紹介した（9月29日放送）。

館 外 業 務

1. 資料の出品

○「大航海時代のなかの日本展」

会期・昭和59年1月18日～4月15日

会場・国立歴史民俗博物館

紺糸素懸威具足（徳川家光所用）を出品。

○特別展「日本の硝子」

会期・昭和59年4月22日～5月27日

会場・北海道立近代美術館

重文びいどろ壺3個（付手簞笥）を出品。

○「大航海時代のなかの日本展」

会期・昭和59年11月1日～12月31日

会場・国立歴史民俗博物館

縹糸威具足（徳川家光所用）を出品。

○特別展「徳川家康とその武具」

会期・昭和59年11月3日～11月23日

会場・岡崎市三河武士のやかた家康館

重文短刀貞宗・火縄銃・鞍、徳川家康像、薙刀国宗、金扇馬標を出品。

○「御物・国宝備前名刀展」

会期・昭和59年11月6日～12月9日

会場・刀剣博物館

国宝太刀真恒を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・昭和59年6月9日

会場・静岡県教育会館

昭和59年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任、清水学芸員が出席。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・昭和59年6月7日

会場・塩山市公民館

昭和59年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

4. 日本博物館協会総会

期日・昭和59年6月29日

会場・国立科学博物館

昭和59年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。席上、松浦館長が新理事に選出された。

5. 全国博物館大会

期日・昭和59年10月3日～4日

会場・盛岡市中央公民館

第32回大会が開催され、松浦館長が出席。

6. 静岡県文化財保存協会総会

期日・昭和59年5月21日

会場・静岡県福社会館

昭和59年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

7. 学芸職員研究集会

(a)期日・昭和59年8月24日

会場・常葉美術館

(b)期日・昭和59年12月19日

会場・静岡県庁西館

静岡県博物館協会主催で開催、(a)(b)に小林学芸主任、(a)に清水学芸員、(b)に花房学芸員補が出席。

8. 静岡県博物館協会役員会

期日・昭和59年4月24日

会場・(財)駿府博物館

松浦館長、小林学芸主任、清水学芸員が出席。席上、松浦館長が会長に再任された。

庶務報告

1. 昭和59年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェー と共通	クーポン	無料	計
4月	9,892	2,182	2,489	1,285	771	156	16,775
5月	9,276	1,803	4,970	1,536	636	224	18,445
6月	4,890	274	1,704	703	426	123	8,120
7月	4,481	664	954	804	410	124	7,437
8月	8,614	3,369	466	2,161	572	107	15,289
9月	6,126	547	1,533	1,024	362	168	9,760
10月	7,052	562	4,048	1,459	605	297	14,023
11月	6,109	829	2,598	1,119	752	84	11,491
12月	2,957	323	436	509	202	43	4,470
1月	8,700	1,763	229	1,348	354	121	12,515
2月	6,401	730	441	708	401	115	8,796
3月	7,699	1,598	571	1,215	694	64	11,841
計	82,197	14,644	20,439	13,871	6,185	1,626	138,962

2. その他

- 4月28日「現代中国水墨画展」(於常葉美術館)の開会式に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 6月28日 静岡県文化財保存協会中部地区会に清水学芸員が出席。
- 7月6日～7日 1階の照明を増設。
- 7月20日～22日 国学院栃木短大講師栗原澄子氏が館蔵の染織品を調査。
- 7月30日及8月1日 塩害防止装置を取り替えた。

- 8月26日 県文化財保存協会主催の山中城趾見学会に松浦館長、清水学芸員が参加。
- 8月31日付で清水学芸員退職。花房正章を学芸員補とする。
- 9月26日～27日 県文化財保存協会主催の国立歴史民俗博物館視察等の研修会に小林学芸主任、花房学芸員補が参加。
- 10月9日 「彫漆展」(於徳川美術館)の開会式に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 11月3日 特別展「徳川家康とその武具」(於岡崎市)の開会式に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 11月27日 御穂神社の寄託刀剣を返還。
- 12月5日 東京都美術館学芸員松木寛氏、静岡県教育委員会学芸員田中文雄氏が三十六歌仙額を調査。
- 12月11日及1月12日 学研の依頼による資料撮影を榎大塚巧藝社写真部の手により行なった。
- 2月11日～13日 小林学芸主任が弘前市立博物館を視察。
- 3月23日 松浦館長が日本博物館協会評議員会に出席。
- 3月29日 東海大学教授岩下光男氏壮行会に館長代理で小林学芸主任が出席。
- その他 この期間に下記の人々が来館した。

佐々木順子氏(北海道立近代美術館学芸員, 4月11日), 鵜田孝一氏(大塚巧藝社, 4月17日及1月12日), 宇田川武久氏(国立歴史民俗博物館助教授, 4月27日, 10月15日及1月16日), 野田克巳氏(岡崎市観光課長, 5月17日及11月25日), 鈴木正美氏(北海道立近代美術館学芸第二課長, 6月2日), 橋本一夫氏(ヤマト美樹, 6月6日及3月7日), 川松康人氏(町田市立博物館学芸員, 8月3日及3月30日), 東南アジア留学生80名(8月6日), 東海大学博物館学実習生30余名(9月4日), 瀬本久雄氏(静岡市文化財資料館長, 9月5日), 池谷正氏(静岡新聞社, 9月29日及10月20日), 西川秀紀氏(和歌山東照宮々司, 10月6日及28日), 神谷栄子氏(東京国立文化財研究所主任研究官, 10月6日), 徳川義宣氏(徳川美術館長, 10月6日), 古巻氏(静岡新聞社, 10月8日及20日), 森下嘉男氏(県文化課, 10月15日), 原政宏氏(清水市観光課, 10月16日), 栗原澄子氏(10月20日), 小林暉昌氏(刀剣博物館学芸員, 10月23日及12月13日), 堀江登志美氏(家康館学芸員, 11月1日), 田中則和氏(仙台市教育委員会主事, 11月13日), 梅津健一氏(ねむの木子ども美術館, 12月9日), 伊藤公芳氏・工藤一郎氏(静岡出版, 12月12日及2月4日), 竹本春治氏(大塚巧藝社, 1月12日), 永六輔氏(作詩家, 1月23日), 酒井忠治氏(致道博物館学芸部長, 1月24日), 渡辺妙子氏(1月24日), 杉山氏(静岡新聞社, 1月30日), 山田勅氏(弘前市立博物館学芸員, 3月15日), 武田智恵子氏(弘前市立博物館学芸員, 3月28日)。

昭和60年度

館内業務

1. 特別展

○徳川将軍家の名刀展

会期＝昭和61年1月1日～3月31日

館蔵の将軍家の刀剣・刀装を展示。

2. 徳川将軍家伝世品の調査

昭和60年7月22日～24日，9月18日～20日，10月7日～9日，11月22日，12月2日～4日
及び昭和61年1月29日～31日，2月25日～28日に徳川将軍家伝世の調度・衣裳・書画等を
調査した。

館外業務

1. 資料の出品

○「久能山東照宮所蔵 徳川将軍家の名宝展」

会期・昭和60年4月21日～5月19日

会場・弘前市立博物館

国宝太刀真恒作，重文鹵杓具足，東照大権現像等92件（国宝1，重文28）を出品。

○「徳川四天王展」

会期・昭和60年6月4日～28日

会場・（財）致道博物館

重文打刀拵・短刀貞宗作及び東照大権現像，鷲図，元康覚書，刀三池写を出品。

○「徳川四天王展」

会期・昭和60年7月3日～30日

会場・（財）佐野美術館

出品内容は上記「徳川四天王展」に同じ。

○特別展「最後の将軍徳川慶喜とその時代」

会期・昭和60年8月6日～9月8日

会場・水戸市立博物館

徳川慶喜筆「間宮魁像」と慶喜所用プレモカメラを出品。

○特別展観「打刀拵」

会期・昭和60年8月8日～9月8日

会場・東京国立博物館

重文打刀拵・脇指行光作（拵とも）を出品。

○「江戸明治弁当箱展」

会期・昭和60年9月10日～10月20日

会場・町田市立博物館

徳川家光・家綱所用の蒔絵腰桶3合を出品。

○「家康と本多忠勝展」

会期・昭和60年10月5日～11月4日

会場・千葉県立総南博物館

東照大権現像、徳川十六将図、家康定書、大極旗を出品。

○「家康と徳川将軍家の名宝展」

会期・昭和60年10月26日～11月24日

会場・名古屋城天守閣

国宝太刀真恒作、重文歯染具足・安鎮曼荼羅等（国宝1，重文43）92件を出品。

○「戦国武将甲冑展」

会期・昭和61年3月21日～4月20日

会場・大阪城天守閣

重文金陀美具足、角頭巾形兜、紺糸素懸威具足を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・昭和60年6月14日

会場・（財）駿府博物館

昭和60年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任、花房学芸員補が出席。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・昭和60年5月29日～30日

会場・横須賀市自然人文博物館

昭和60年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

4. 日本博物館協会総会

期日・昭和60年6月28日

会場・国立教育会館

昭和60年度総会が開催され、松浦館長が出席。

5. 全国博物館大会

期日・昭和60年11月5日～6日

会場・（財）MOA美術館

第33回大会が開催され、松浦館長が出席。小林学芸主任が大会実行委員として協力した。

6. 静岡県文化財保存協会総会

期日・昭和60年6月13日

会場・静岡県婦人会館

昭和60年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

7. 学芸職員総会

期日・昭和60年10月30日

会場・静岡県立美術館

昭和60年度総会が開催され、小林学芸主任が出席。

8. 学芸職員研究集会

(a)期日・昭和60年12月19日

会場・（財）駿府博物館

(b)期日・昭和61年3月9日

会場・久能山東照宮社務所3階ホール

静岡県博物館協会主催で開かれ、小林学芸主任、花房学芸員補が出席。

9. 文化講演会

期日・昭和61年3月9日

会場・久能山東照宮社務所3階ホール

演題・「徳川家康の一生が現代に教えるもの」

講師・当館々長 松浦国男

第7回文化講演会が静岡県博物館協会の主催で開かれた。

庶務報告

1. 昭和60年度入館者状況

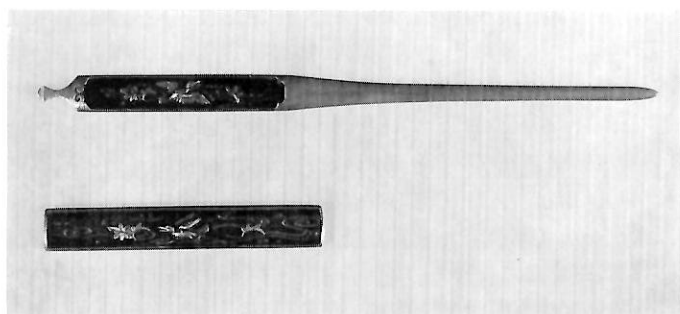
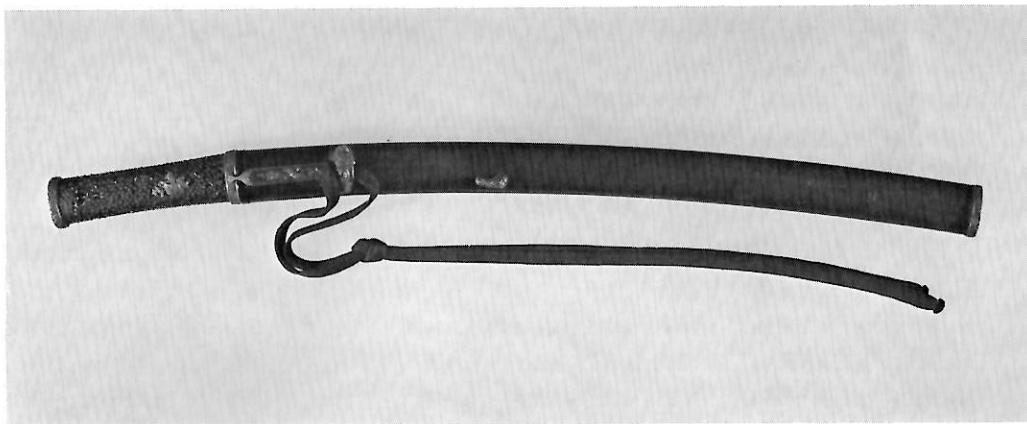
区分 月	大人	小人	団体	ロープウェー と共通	クーポン	無料	計
4月	6,513	1,436	1,635	1,049	598	157	11,388
5月	6,751	1,274	2,480	1,297	672	199	12,673
6月	3,805	228	2,239	599	367	158	7,396
7月	3,574	499	815	565	385	98	5,936
8月	8,193	3,069	699	0	752	56	12,769
9月	4,762	518	1,060	483	489	108	7,420
10月	5,259	404	5,152	487	793	117	12,212
11月	7,329	1,282	2,987	512	876	88	13,074
12月	3,412	442	281	191	216	31	4,573
1月	8,292	1,724	194	582	418	63	11,273
2月	8,138	803	699	439	496	64	10,639
3月	10,216	2,156	1,056	509	937	184	15,058
計	76,244	13,835	19,297	6,713	6,999	1,323	124,411

2. その他

- 4月10日及25日、「学芸職員研究紀要」編集委員会に小林学芸主任が出席。
- 4月20日、「久能山東照宮所蔵 徳川將軍家の名宝展」（於弘前市立博物館）開会式に松浦館長、小林学芸主任、花房学芸員補が出席。
- 5月24日、鈴木敬氏の学士院賞受賞祝賀会（於静岡県たちばな会館）に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 5月27日～30日博物館2階シャッターを自動式に改めた。
- 6月6日、「崋山図録」出版祝賀会（常葉美術館主催）に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 6月8日、常葉学園短大創立20周年記念式典（於静岡市民文化会館）に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 6月12日、県所蔵刀剣の手入れが行なわれた。
- 6月28日、日本博物館協会の理事会に松浦館長が出席。
- 6月29日、私立館長会議に松浦館長が出席。小林学芸主任が特別展の打ち合わせで名古屋城へ出向。
- 7月3日、「徳川四天王展」（於佐野美術館）を小林学芸主任が視察。
- 7月18日、スタッフ・アズバーズが家康像と鉛筆を撮影。
- 9月11日、博物館2階の電源工事が行なわれた。

- 10月15日～16日、静岡県文化財保存協会の県外研修会に小林学芸主任が参加し、越前一乗谷朝倉館跡、福井市立郷土歴史博物館を視察。
- 10月26日、「家康と徳川将軍家の名宝展」（於名古屋城天守閣）開会式に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 11月2日、社務所新築に伴う電話の取り付けが行なわれた。
- 2月8日、博物館2階入口のシャッターを修理。
- 3月14日、国立歴史民俗博物館の資料購入評価会に小林学芸主任が出席。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。

栗原澄子氏（国学院栃木短大講師，4月1日），大脇智笑子氏（NHK名古屋，4月2日資料撮影），間宮康文氏（SBSプロモーション，4月2日），亀山千鶴男氏（県文化課長，4月8日），今井清隆氏・安本収氏（駿府博物館，4月9日），東條寿氏・後藤佐雅夫氏（京都府教育庁文化財保護課，4月9日），武田智恵子氏（弘前市立博物館学芸員，4月13日～15日及5月24日～25日），山田勅氏（弘前市立博物館学芸員，4月16日及5月23日），並木弘至氏（大塚巧藝社長，4月17日），鴫田孝一氏（大塚巧藝社，4月17日，8月8日，11月19日，1月18日），黒木真理子氏（読売新聞記者，4月23日），今野勉氏（テレビマンユニオン代表取締役，4月23日及5月26日資料撮影），中部NHK制作部15名（5月18日），高坂毅氏（中日新聞本社，5月31日，6月18日，10月17日，12月26日），奥出賢治氏（名古屋城学芸員，5月31日，8月30日・31日，10月17日～21日，11月27日～29日），酒井忠治氏（致道博物館学芸部長，5月31日及7月31日），渡辺妙子氏（佐野美術館副館長，5月31日），小川幹生氏（豊清二公顕彰館学芸員，6月17日），井上俊武氏（名古屋城管理事務所長，6月18日，12月26日），川松康人氏（町田市立博物館学芸員，6月25日，7月11日，9月3日，11月1日），二木謙一氏（国学院大学助教授，6月27日），渡辺琢久氏（清水市観光協会，7月1日，10月13日，11月21日），玉川里子氏（水戸市立博物館学芸員，7月9日及31日，9月11日），井上尚子（佐野美術館学芸員，7月31日），小笠原信夫氏（東京国立博物館刀剣室長，8月8日及9月14日），洪沢秀夫氏（町田市立博物館事務長，9月3日），橋本一夫氏・竹内俊明氏・大野嘉宏氏（ヤマト美樹，9月24日），本吉氏（総南博物館学芸員，10月1日及11月7日），岡部順一氏（中日新聞本社，10月18日～21日及11月29日），松平乗昌氏（10月28日及11月23日），寺田安雄氏（読売新聞社主任，10月28日），中野氏（名古屋城，11月7日及27日～29日），志賀健二郎氏（小田急百貨店主任，11月15日），片平剛氏（静岡人類史研究所，11月19日），大津淳氏（東海テレビ，11月27日及28日），中村博司氏（大阪城天守閣学芸員，12月18日及3月16日），荒川鉦氏（静岡大学助教授，12月20日），並河成一氏（12月25日），梅田亮三氏（大塚巧藝社，1月18日），小和田哲男氏（静岡大学助教授1月26日），野田克己氏・堀江登志美氏（家康館，2月17日），出羽振治氏（岩手県立博物館学芸員，2月18日），堀沢光栄氏（富士美術館学芸係長，3月5日），栄恩奇氏・李振甫氏・劉永増氏（敦煌展関係者，3月5日），池谷正氏（静岡新聞社，3月13日），榊原悟氏（サントリー美術館学芸員，3月18日），小林忠氏（学習院大学教授，3月18日）。



博物館の名品 5

重文 黒皺柄黒漆鞘小さ刀拵

合口式の小さ刀拵で、柄には黒漆の皺皮を着せ、頭、縁、栗形、返角および鐙の金具は、赤銅魚子地に流水と葵紋を金銀の高彫色絵で表わしている。目貫は金の牽牛・織女。鞘は黒の蠟色塗りで、鯉口も同様とし、表・裏瓦は金鍍地とする。小柄と筭は表を赤銅魚子地に流水・鵲・紅葉を金銀高彫象嵌色絵にし、裏は硝金としたもので、後藤作とみられる。下緒には紺の平打の組紐を用いている。小さ刀は、殿中において長袴を着用する際に帯刀する腰刀である。この小さ刀拵は徳川家康所用のもので、中身は無銘行光の脇指である。全長70.0cm、柄長14.2cm、鞘長55.4cm。



博物館の名品 6

重文 鞍（徳川家康関係資料）

鞍とは広義では馬具の総称であり、その種類には唐鞍、移鞍、大和鞍、水干鞍がある。この家康所用の馬具は室町期の水干鞍様式を伝えるものである。鞍橋は黒漆の海無鞍で前輪後輪の正面中央にそれぞれ三葉葵紋を金蒔絵しているが、総体に質素な造りで伊勢作の形容を伝える。鐙は鉄地黒漆で踏込は朱塗りとし、紋板に枳形を透し、その上部に金箔置の三階菱紋を施す。韁は白胡粉塗りの葛切付と黒皺革包の肌付からなり、馬髭も葛製で白胡粉塗りとし、白の牛の滑革包とした力革には市著革がなく、ともに古様で式正の特色が顕著である。三懸は紫糸角八ツ組七本綱の辻総の鞆で、全体の長さが短く、家康の愛馬は蒙古馬より少し大きいくらいであったことがしる。索馬に使用する鞍覆は表を緋羅紗にし絹絲の房を表面と縁に付けて装飾し、追綱は紅角八ツ打に切り房を付ける。この鞍は紛失しやすい多くの付属品を皆具しており、当時の馬具をしる好個の資料となっている。鞍橋前輪高27.2cm、後輪高37.7cm、居木長38.5cm、幅8.7cm、鐙長29.5cm、幅14.7cm、高29.0cm、切付縦38.0cm、横45.0cm、力革最長84.6cm、面懸140.0cm、胸懸238.0cm、鞆320.0cm、鞍覆縦87.5cm、横90.0cm、追綱(一)総長113.0cm、追綱(二)総長111.4cm。

久能山東照宮博物館報

— 第 9 号 —

昭和62年10月17日 発行

編集発行 久能山東照宮博物館

〒422 静岡市根古屋390

TEL. 0452 (37) 2437